

市教研書写部会 10月授業研究会

第4学年 国語科(書写)学習指導案

市教研統一研究主題

「自ら学び心豊かに生きる力を身につけた児童生徒の育成」

平成26年度書写部会 研究主題

「一人一人が主体的に取り組む書写授業のあり方」

- 【仮説1】** 児童生徒一人一人が自分にあった課題をもち、自分の文字について振り返りの方法をつかめるようにすれば、文字を書こうとする意識が高まるであろう。
- 【仮説2】** 児童生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の方法と場の工夫をすれば、学習意欲が喚起され、主体的に取り組むであろう。
- 【仮説3】** 学習のねらいや実態に応じた評価の基準を明確にすれば、児童生徒は文字感覚が豊かになり、成就感が得られ、日常の書写学習に生かすことができるようになるだろう。

授業日時	平成26年10月21日(火)
授業者	飯田 靖果
授業展開	4年3組
授業展開場所	4年3組教室
協議会会場	会議室

千葉市立新宿小学校

第4学年 国語科書写学習指導案

千葉市立新宿小学校

飯田 靖果

1. 単元名 ひらがなの筆使い

五 ひらがなの筆使い「はす」

2. 単元について

ひらかなには、漢字と比べて字形に丸みと線に柔らかさがあるのが特徴である。児童は、1年生の時の硬筆学習で、「結び」の形の違いについて学習してきており、また、3年生の書写学習のときに、「にじ」を学習し、ひらがなを筆で書くときには、始筆は軽く入り、線と線とがつながるような気持ちで書くことは学んできている。4年生の書写学習では、「横結び」と「縦結び」の字形の違いに気を付けながら、毛筆でも書けるよう指導していき、硬筆でも「結び」が正確に書けるよう、日常化をはかりたい。大きく書ける毛筆で、基準を明確にし、練習しながら字形を知ることが、硬筆へ生かすことに有効だと考える。

そこで本単元では、「はす」という文字を使って、ひらがな特有の筆使いを学習する。「は」の「横結び」と「す」の「縦結び」では筆使いが違う。それぞれの筆使いを理解して書けるようにする。

児童が書くひらがなの字形が整わないことの一つの理由の一つに、「結び」の形がよくないことがあげられる。「結び」のある文字は「横結び」と「縦結び」の二つに大きく分けられることを、原理原則として身につけさせたい。「結び」を筆で書くときには、穂の「ねじれ」を理解する必要がある。筆の軸を回さずに、穂を浮かせてねじる（裏返す）よう指導する。また、「はす」では、ひらがなの曲線的な筆使いも求められる。

第一時で「横結び」と「縦結び」の違いを字源から考え、結びの違いの必要性に気付かせたい。そして、毛筆での書き方の違いから基準に気付かせたい。まず、「横結び」の「は」の書き方は、筆を止めずに、左を曲げ、軽く止めて、穂先の向きをかえる書き方を指導する。次に、「縦結び」の「す」の書き方は、筆を上に向けて軽く止めて、右上へ押しあげ、ゆっくり方向を変えて、下にはらうよう指導する。「結び」には、二つの書き方があることを身につけさせたい。

第二時では、第一時で身に付けた基準をもとに、毛筆での書き方を練習していきたい。ここでは、かご文字や骨文字を使って、結びを中心に筆使いを練習し、結びの基準ができてから、全体的な字形の練習に取り組ませていきたい。まとめでは、自分自身で作品を振り返り、次時の清書で気を付ける箇所を見つける目を養い、次時への意欲に繋げたい。

本時では、「結び」の筆使いや形の違いに気を付けて毛筆で清書し、硬筆に生かしてい

きたい。硬筆は、「は」の「横結び」と「す」の「縦結び」の違いを区別して、書けるよう指導する。

第四時では、毛筆学習で学習したことを、硬筆でも生かせるよう、ひらがなの50音表から、「横結び」と「縦結び」を探し分類しながら、区別して字形を整えながら書けるよう指導する。そして、漢字の原理原則だけでなく、ひらがなにも原理原則があることを知り、ひらがなの特性や結びの違いにも意識して、普段の日常生活でも、正確な字形の整った文字を書けるようにしていきたい。

3. 児童の実態

○児童の「書写学習」や「字形の整え方」の調査（調査人数38名）

①書写の学習は楽しいですか・・・はい 36人

理由：きれいに書けるとうれしい 書く前のポイントを知れて嬉しい（知らないこと）
はらいの「シュッ」が硬筆ではできないけれど、毛筆はできて気持ちがいい
練習すればするほどうまくなるから（最初よりも後の方がきれいになるから楽しい）
前回よりも上達してわくわくする 色々な字の書き方を知れる
鉛筆に生かされているのがわかる 書いた後の達成感がある（試書と清書）
筆で書く機会が少ないから ポイントを意識しながら書こうと思うから
字のこつを知れる 筆で書けることが楽しい
心が落ち着く

・・・いいえ 2人

理由：飾られるのが恥ずかしい 鉛筆よりも太いから上手にかけない

②鉛筆で文字を書くことは好きですか・・・はい 33人

理由：きれいに書ける 文字の形が整えやすい（とめ・はねを書きやすい）
慣れていて書きやすい 鉛筆でもはらいが書けたときに嬉しい
何度でも消して書ける（緊張しない） 細くかけるから
筆で習ったことができると嬉しい 長くかける
色の濃さが調節できる 将来に生かされる

・・・いいえ 5人

理由：芯が折れる 字を書くことがきらい うまくかけない（雑にかいてしまうから）

③筆で文字を書くことは好きですか・・・はい 33人

理由：いつもは鉛筆だから ひとつひとつどうなるのかわくわくする
字を書くのが好き はらいがきれいに書ける
ポイントが見つかっておもしろい 美しくかける
筆で文字を書くと鉛筆でもきれいに書いて、生かせるのが好き

緊張感をもって書けるし、右はらい、左はらい、とめ、はねがよくわかる
友達の作品を見て、がんばらなきゃと思える
鉛筆よりも細かいところに気を付けることができる
字の太さを調節できる 意識しているところがはっきり書ける
点画に気を付けたり、画と画との間に気をつけられると嬉しい
落ち着いて書けるからていねいに書ける

・・・いいえ 5人

理由：字を書くのがきらい むずかしい うまく書けない

④書写で学習したことを生かして、他の時間でも気を付けて書こうとしていますか。

・・・はい 29人 いいえ・・・8人

⑤普段、字を書く時に、どのようなことに気を付けて書いていますか。

画と画の間 ていねいに書く ゆっくり書く 文字の形 点画の位置や書き順（付き方）
とめやはらい お手本をみながら（教科書・ドリル） 正確に書く 見やすく
筆で習ったことを生かす（学習したこと） 苦手な曲がりに気を付ける曲
字の大きさや、点画の長さ 字のバランス

⑥字形（文字の形）を整えて書くにはどのようなことに気を付けて書けばよいと思いますか。

中心（多数）長さ お手本をよく見る 書き順 一画一画に気を付ける 字の大きさ
「ぐう・ぺた・ぴん・さ」に気を付けて姿勢を正す

⑦書写の学習を通して学びたいこと

みんなの作品をもっとみて、学びたい

少し出るところや、とめ、はね、はらいが使われている文字について知りたい

もっと色々な字の気を付けるところを知りたい

ていねいな字を書くためにはどうしたらよいか

難しい漢字を筆で書いてみたい

筆の特徴や良さ 筆で文章を書いてみたい

⑧書写の学習を通してなりたい自分を教えてください。

もっと丁寧に上手にかけるようになりたい（多数）

筆でも、鉛筆でも字形が整うように書きたい（気を付けるところを覚える）

書写で勉強したことを普段に生かしたい

中心が整った文字が書けるようになりたい

名前がていねいにかけるようになりたい

4. 単元の目標

- 「結び」の筆使いを理解することができる。
- 「結び」の筆使いや形の違いに気を付けて書くことができる。
- 「結び」の形の違いを確かめて、硬筆で書くことができる。

5. 学習計画(4時間扱い)

- 「横結び」と「縦結び」の違いを知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- 「結び」の筆使いや形のちがいに気を付けて書こう・・・・・・・・・・1時間
- 「結び」の筆使いを理解して、「はす」を正しく硬筆で書こう・・・・・・・・1時間（本時）
- 「横結び」と「縦結び」が使われている字を硬筆で書こう・・・・・・・・1時間

6. 本単元で検証する仮説

【仮説3】評価方法の工夫

学習のねらいや実態に応じた評価の基準を明確にすれば、児童生徒は文字感覚が豊かになり、成就感が得られ、日常の書写学習に生かすことができるようになるだろう。

基準を明確にするための手立て

- (1) 成就感を得るための試書と清書の比較
基準（見本・資料等）を見ずに試書を行い、基準を意識した清書と比較することで、本単元の中での伸びが実感でき、出来るようになった、上手に書けたという思いを大切にしていきたい。
- (2) 字源を意識したひらがな学習
ひらがなは、漢字の字源から作られており、本単元で扱うひらがなも字源を意識することで、形を捉えやすくなるを考える。特に、児童にとって「横結び」「縦結び」は、混乱しやすいと思うため、「は」は「波」、「す」は、「寸」から出来ていることを確認し、区別させていきたい。
- (3) 二色筆
「結び」を筆で書く時には、穂の「ねじれ」を理解する必要がある。二色筆を使いながら、筆の軸を回さずに、穂を浮かせてねじる（裏返す）よう指導する。また、「はす」では、ひらがなの曲線的な筆使いも求められるため、筆のつながりにも気をつけさせたい。
- (4) 相互評価
友達と作品の評価を仕合うこと（他己評価）を通して、達成感や自信につながるようにしていきたい。
- (5) 書画カメラを使った基準の確認
毛筆学習でも、硬筆学習でも、基準ができている児童の作品を全員で一緒に、視覚的に確認することで文字の原理・原則を押さえたい。
- (6) 関連文字探しでの硬筆学習（ワークシートの工夫）

ひらがな50音表から「横結び」・・・は、な、ぬ、ね、ほ、ま、よ
「縦結び」・・・す、お、み、む
を探して、自分で分類することで、本時の学習した文字だけでなく、日常に生かせる書写学習を目指したい。

7. 本時の学習

(1) 目標

- 「結び」の筆使いや穂先の動きに気を付けて、字形を整えて書くことができる。
- 「結び」の筆使いを理解して、「はす」を正しく硬筆で書くことができる。

(2) 展開 (3/4)

過程	学習活動と内容	教師の指導・支援	評価の観点	資料・教具
気付く	1 基準を確認する。	○「横結び」 止めずに左へ曲げ、軽く止めて、穂先の向きを変える。 「縦結び」 上へ持ち上げ、軽く止めてから、右上へおしあげ、ゆっくり方向を変えて、下にはらう。	本時の課題を確認しようとしていたか。(関)	「はす」 の手本 「二色筆」の 拡大した手本
「結び」の筆使いを理解して、「はす」を正しく硬筆で書こう。				
つかむ	2 基準に気を付けながら、練習する。	○結びの違いを考えながら意識して書くよう声かけする。 ○穂先の位置、筆使いに気をつけさせる。 ・結びの部分は、筆を持ち上げながら、形を整える。	「結び」の違いを意識して書けたか。 (知・思)	教科書 半紙3枚程度
	3 清書する。	○基準を再度確認しながらより正確なものを選ぶよう声かけする。	正しい姿勢や持ち方を意識して結びに気をつけて書くことができたか。	
	4 毛筆のまとめをする。	○試書をしたものと比べ、自己評価したり、学習の振り返りをした	(意・技)	

	(隣同士で相互評価する。)	りする。		
まとめ	<p>5 試書と比べて、成果を確かめる。</p> <p>6 はすを硬筆でまとめ書きする。</p> <p>7 「は」の横結びと「す」の縦結びのきまりをまとめる。</p>	<p>○基準ができている作品を紹介する。</p> <p>○毛筆学習の基準を生かすようよびかける。</p> <p>○基準ができている作品を紹介する。</p> <p>○漢字だけでなく、ひらがなにも、きまりがあることに気付かせる。</p>	<p>進んで評価している。(意)</p> <p>正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して結びに気をつけて書くことができたか。(意・技)</p>	<p>練習プリント</p> <p>書画カメラ</p>